

(参考2) 平成17年平均消費者物価地域差指数の概況

(1) 平成17年平均消費者物価地域差指数(全国平均=100)を地方別にみると、総合指数(持家の帰属家賃を除く)は、関東が102.9と最も高く、次いで北海道が102.6、近畿が101.4、北陸が100.7となっている。

一方、最も低いのは、沖縄の95.2で、次いで四国が96.7、九州が96.8、東北が98.5、中国が98.7、東海が99.8となっている。

(2) 都市階級別にみると、大都市が104.7、中都市が100.0、小都市Aが98.5、小都市Bが96.7、町村が96.7となっており、大都市の指数は小都市B及び町村に比べ8.3%高くなっている。

(3) 都道府県庁所在市別にみると、東京都区部が110.9と最も高く、次いで横浜市が110.1、大阪市が107.0、京都市が105.6、さいたま市が104.8となっている。

一方、最も低いのは、那覇市の96.2で、次いで宮崎市が96.6、秋田市及び松山市が98.4、前橋市、徳島市及び高松市が98.8となっている。

なお、東京都区部は那覇市に比べ15.3%高くなっている。

統計表は458ページに掲載している。

図 地方別消費者物価地域差指数

